

# 矢作川流域圏懇談会 第5回全体会議



平成28年2月22日

根羽村内を流れる矢作川

国土交通省 豊橋河川事務所

# 全体会議の次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 矢作川流域圏懇談会とは
4. 本日の話し合いのポイント
5. H25～H27の運営方針
6. 各部会の活動進捗
7. 流域連携テーマに関する成果
8. 今後の運営方針について
9. 各部会の今後の活動方針
10. 流域連携テーマに関する活動方針
11. 河川整備計画フォローアップについて
12. 閉会

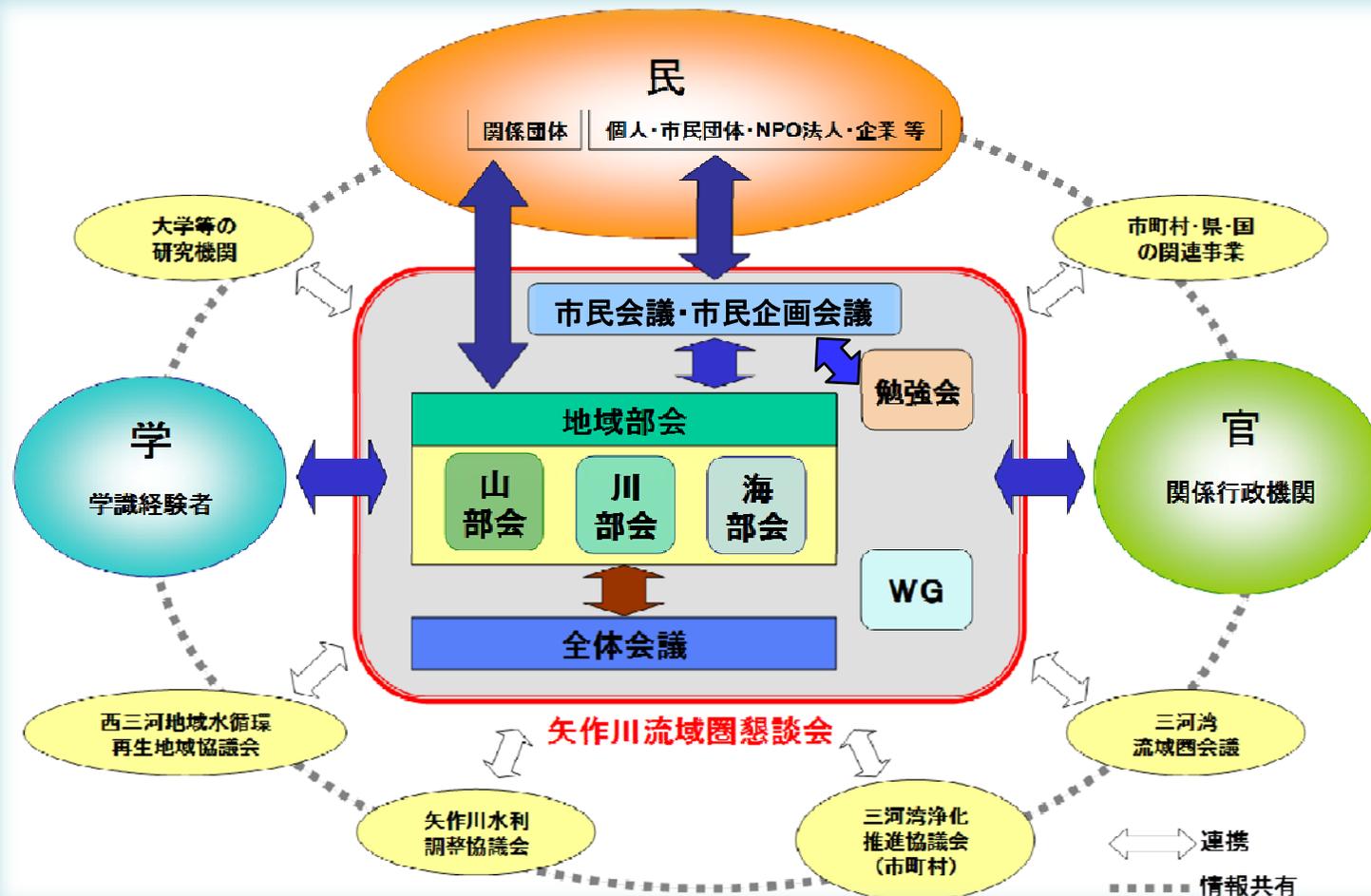
# 3. 矢作川流域圏懇談会とは ①

矢作川流域圏のあり方を検討する視点

“流域は一つ、運命共同体”

89組織 275名が登録 (H28.1.31現在)

- ①流域圏住民・関係者の連携強化
- ②流域圏住民の啓発活動
- ③行政と住民が連携した調査・研究の充実
- ④河川を中心とした流域の社会基盤形成及び地域の活性化



# 3. 矢作川流域圏懇談会とは ②

H27実績

会議名称	役割	今年度の実施日
全体会議 (年に1回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各部会で検討した課題やその解決手法を流域全体としてとりまとめ、情報を一元化するとともに、部会へのフィードバックを行う</li> <li>➤ 部会で検討した内容を総合調整する場</li> </ul>	平成28年2月22日 (本日)
地域部会 (年3回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 流域圏を山・川・海・の3つに分け、それぞれの地域特性に応じた課題の明確化とその解決手法を話し合う</li> <li>➤ 民・学・官の3者が公平な立場で意見交換・情報共有を行う場</li> </ul>	山：平成28年1月15日 川：平成28年1月18日 海：平成28年2月4日
市民会議 (年1回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 住民の視点から、具体的な課題の提起や課題解決のアイデア出しなどを行う</li> <li>➤ 地域部会への具体的な問題提起・提案を行う場</li> </ul>	平成28年2月9日
市民企画会議 (年1回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 山・川・海の部会ごとに個別の課題や連携に向けた話し合いの場</li> <li>➤ 勉強会の企画について話し合いを行う場</li> </ul>	平成27年5月11日
WG《ワーキンググループ》 (必要に応じて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 必要に応じて開催し、具体的な課題への対応や協議・調整を行う</li> </ul>	各部会ごと実施
勉強会 (必要に応じて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 活動団体の活動発表の場、情報交換の場として活用し、流域一体の取り組みに向けての連携のきっかけを作れる</li> <li>➤ 懇談会の中で挙げられた課題の解決を行う上での学びの場としても活用(有識者によるレクチャーや事例研究など)</li> </ul>	平成27年9月12日～13日 (山部会WGオプション； 長野県中房温泉・荒山林業)

# 4. 本日の話し合いのポイント

## 1. 確認事項

- (1) H25～27の運営方針
- (2) 各部会の活動進捗
- (3) 流域連携テーマに関する成果（市民会議の成果）

### 話し合いのポイント

- ・各部会の今年度の活動進捗と3ヶ年の活動成果・課題について、メンバーからの補足説明や意見交換を行う。
- ・流域連携テーマについて、今年度の活動進捗成果と課題について、主務担当者から補足説明や意見交換を行う。

## 2. 協議事項

- (1) 今後の運営方針と各部会の今後の活動方針
- (2) 流域連携テーマに関する活動方針
- (3) 河川整備計画フォローアップについて

### 話し合いのポイント

- ・今後の運営方針の活動方針に関わる不明な点について、質疑応答を実施する。
- ・出席者から、今後の運営方針に関わる提案等があれば、意見交換を行う。

## 5. H25~27の運営方針

### <H25-27の目標>

- 流域圏一体化については、山・川・海地域の構成メンバー同士で情報共有を進め、**お互いの課題解決に向けた協力・連携体制をつくる**
- 当初3ヶ年で検討の道筋をつけた課題の解決手法について、**部会別WG等の中で検討・実行（実証）を行う**
- 活動成果が見えた段階で、**懇談会の新たな活動として、活動成果の積極的なPRを行い、さらなる活動の輪、人の輪を広げる**

### <H25-27の運営方針>

- 「**企画・調整**」「**検討・実施**」「**とりまとめ・報告**」の3段階で**1年ごと**に運営
- 個別の課題は、「**部会別WG**」にて継続的に**検討・実施**
- 流域圏一体化に関わる内容は、「**市民企画会議**」「**勉強会**」「**市民会議**」にて議論

## 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度・3ヶ年）

（3ヶ年（H25～27）の目標）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく
- WGの中で森づくりガイドラインの策定とモデル林によるモニタリングの試行的実施を行う
- WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行

<テーマ>

<解決手法>

山村再生担い手づくり事例集

森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。

山村ミーティング

山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。

森づくりガイドライン

流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。

木づかいガイドライン

矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

## 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

山部会WGを8回と地域部会を開催

活動	日時	場所
第24回WG (豊田) 17名参加	5月15日(金)～16日(土) 13:30-17:00	・豊田市森林組合新庁舎 第2第3会議室
第25回WG (根羽) 13名参加	6月11日(木) 13:30-16:30	・根羽村老人福祉施設しゃくなげホール
第26回WG (恵那) 13名参加	7月24日(金)～25日(土) 13:00-16:00	・奥矢作レクリエーションセンター 大会議室
第27回WG (岡崎) 16名参加	8月21日(金) 14:00-17:30	・岡崎市ぬかた会館 2階2～3会議室
第28回山海合同WG (東幡豆) 28名参加	9月25日(金)～26日(土) 13:00-	・東幡豆漁業組合 会議室
第29回WG (岡崎) 28名参加	10月16日(金)～17日(土) 14:00-	・岡崎市ぬかた会館 2階2～3会議室ほか
第30回WG (恵那) 19名参加	11月27日(金) 14:00-17:10	・上矢作林業センター 大会議室
第31回WG (豊田) 18名参加	12月21日(金) 13:00-16:00	・豊田市職員会館 2F第1会議室
第7回地域部会 (根羽) 25名参加	1月15日(金)～16日(土) 14:00-	・根羽村老人福祉施設しゃくなげホールほか

# 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

## ①山村再生担い手づくり事例集 | 今年度の活動より分かったこと

- 今年度も、矢作川流域市町村の担い手を対象に、取材を行い、**事例集（Ⅲ）の作成を行った。**
- 今年は、取材対象に天下杉、あすけ聞き書き隊といった**文化的団体も加えた。**
- 文化的な団体は、**地域の活性化・住民のモチベーションの向上にとって重要であることが分かった。**

### 【合計22団体】

〈長野県〉：2団体

- ・飯伊森林組合平谷事業所（平谷村）
- ・天下杉（根羽村）

〈岐阜県〉：1団体

- ・夕立山森林塾（恵那市山岡町）

〈愛知県〉：19団体

- ・野外保育園とよた森のようちえん 森のたまご（旧豊田市）
- ・農村舞台アートプロジェクト（旧豊田市）
- ・稲武山里体験推進協議会（どんぐり工房）（豊田市稲武地区）
- ・ファーストハンド（豊田市稲武地区）
- ・老人福祉センターぬくもりの里（豊田市旭地区）
- ・有間竹林愛護会（豊田市旭地区）
- ・あさひ森の健康診断（豊田市旭地区）
- ・あさひ薪づくり研究会（豊田市旭地区）
- ・おいでん・さんそんセンター（豊田市足助地区）
- ・あすけ聞き書き隊（豊田市足助地区）
- ・山里センチメンツ（豊田市足助地区）
- ・しもやま再来るプロジェクト（豊田市下山地区）
- ・コレカラ商店（豊田市小原地区）
- ・岡森フォレストーズ（岡崎市額田地区）
- ・鳥川ホテル保存会（岡崎市額田地区）
- ・額田木の駅プロジェクト（岡崎市額田地区）
- ・日近太鼓（岡崎市額田地区）
- ・蒲郡市漁場環境保全協議会（蒲郡市）
- ・島を美しくする会（西尾市）



天下杉による慰問の様子（売木村）



日近太鼓が主催する太鼓フェスティバル（岡崎市）

# 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

## ①山村再生担い手づくり事例集 | 活動の成果と課題

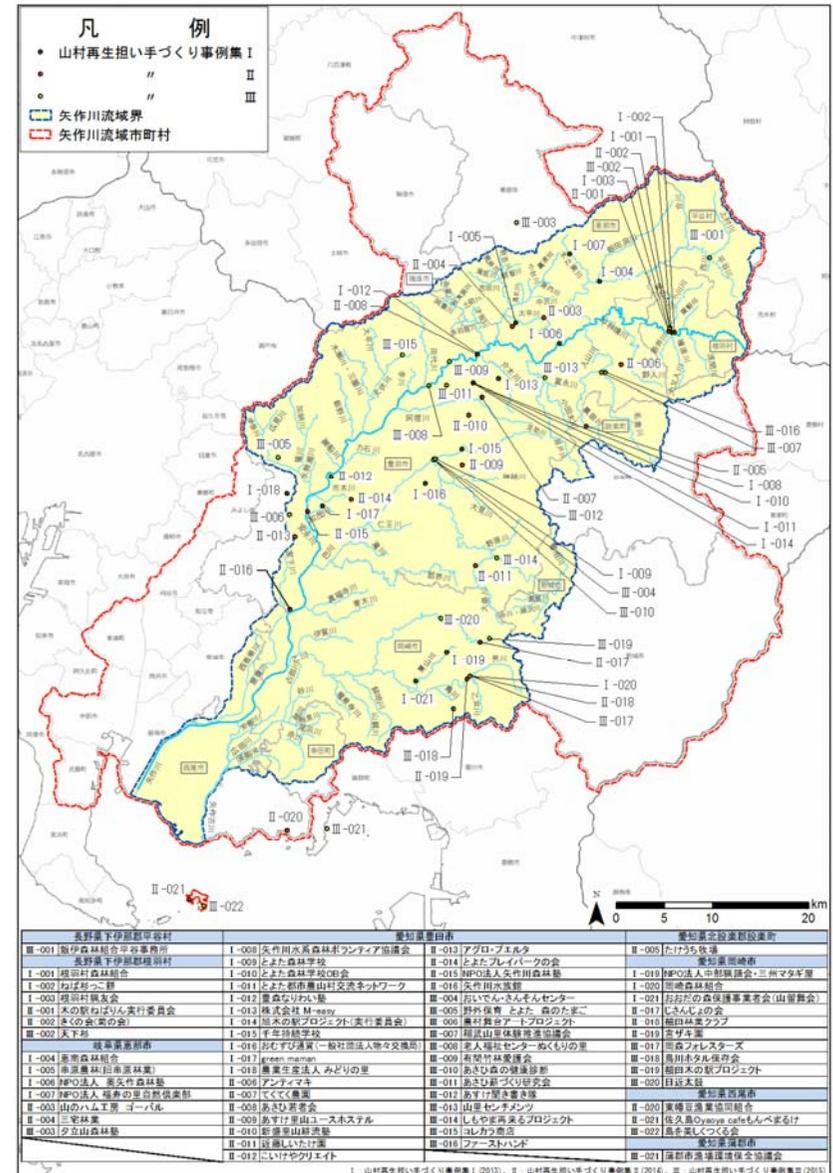
山村再生担い手づくり事例集マップ（仮）

### 【成果】

- 過去の取材者が取材先になる等、事例集に関わる人の繋がりがさらに深まった。
- 大学の講義（体験学習）に山村担い手づくり事例集が活用された。
- 3ヶ年に及ぶ山村再生担い手づくり事例集（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の活動拠点について、マップの作成を行った（参考資料参照）。

### 【課題】

- 山村再生担い手づくり事例集の活用や市民への普及
- 山村再生担い手づくり事例集の効果の検証



## 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

### ②山村ミーティング | 今年度の活動より分かったこと

※山村ミーティングとは、森林組合など森で働く人々の交流の場をもつことを目的としている

#### 【情報共有】

- 北海道中川町では、第2回きこり祭りが行われ、**目標とされるイベントの情報共有**が図られた。

#### 【検討事項】

- イベントの計画や実施するための**資金の見通しが困難**である。
- 対象範囲が広いことに加え、**林業従事者数が多すぎて情報を共有できない**。
- 林業従事者間の**世代間のギャップ**に加え、**肉体労働後の話し合いは難しい**。
- 林業従事者と都市在住の市民（ボランティア）では、**林業に対する価値観の共有が難しい**。



回覧された中川町第2回きこり祭りのチラシ

### ②山村ミーティング | 活動の成果と課題

#### 【成果】

- きこり祭りに代わるイベントの検討**を始めた。
  - 例) ・山村再生担い手づくり事例集に関わった人々でつくる流域（山村）文化祭
  - ・山村と漁村の子どもたちの交換留学（流域内トレード）
- 山村再生担い手づくり事例集、木づかいガイドライン等、**別のテーマと連携・共存**する意見があがった。

#### 【課題】

- きこり祭りに代わるイベントの検討**
- 山村再生担い手づくり事例集や木づかいガイドラインとの**連携手法の検討**

# 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

## ③森づくりガイドライン | 今年度の活動より分かったこと

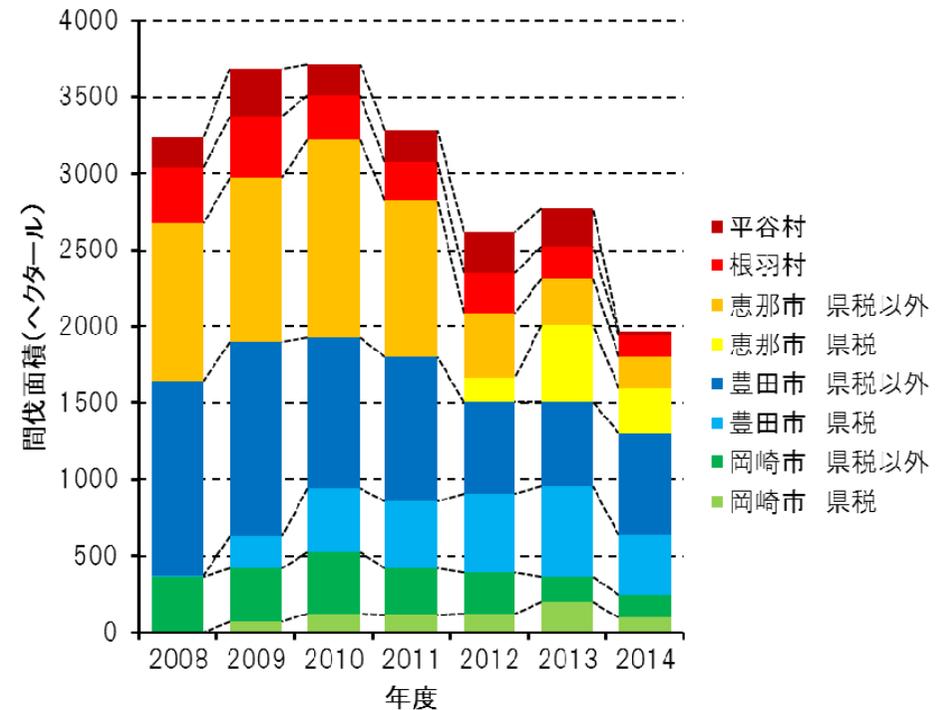
### 【情報収集と共有】

- 川や海に配慮した木材生産を目指すモデル林の設定に向けた情報収集を行った。
- 森づくりに関する事例収集（森林管理局や流域市町村）と情報共有を行った。

## ③森づくりガイドライン | 活動の成果と課題①

### 【成果】

- 豊田市では、100年の森づくり構想に新たな5事業が加えられた。その内容の紹介と意見交換が行われた。
- 岡崎市では、国の水循環基本法に先立って、「水を守り育む条例」が制定されている。WGでは、森林の水源かん養機能を評価するうえでの、**先進事例を学んだ。**
- 流域の関係団体（森林管理局・自治体）より間伐面積に関する情報提供を依頼した。**間伐面積は大きく減少していることが分かった。**



流域市村の間伐面積の推移

# 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

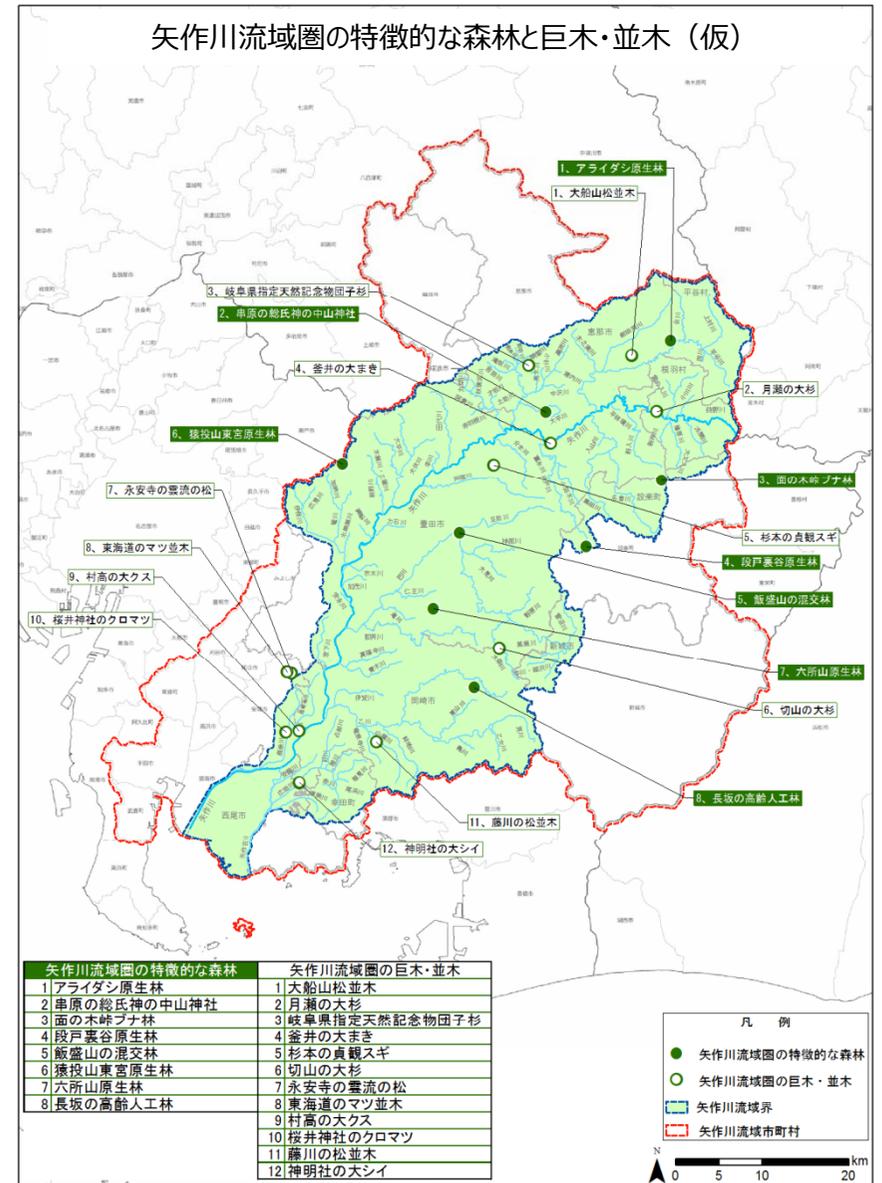
## ③森づくりガイドライン | 活動の成果と課題②

○矢作川流域の特徴的な森づくりの事例については、自治体からの情報収集に加え、WGの中でも選定作業を行っている。場所については、**マップを作成し見える化を図っている**（資料4-1 p13参照）。

○矢作川流域圏への**近自然森づくりの導入を検討するために**、近自然森づくりを実践している「**荒山林業（長野県）**」への視察を行った（有志による）。

### 【課題】

- 流域自治体の森づくりに関する**最新の進捗把握および自治体への意見発信**
- 流域の森づくり（矢作川流域圏に特徴的な森林等）の**集約**
- 構築したデータの**公表および周知方法の検討**



# 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

## ④木づかいガイドライン | 今年度の活動より分かったこと・活動の成果

### 【木づかいの推進】

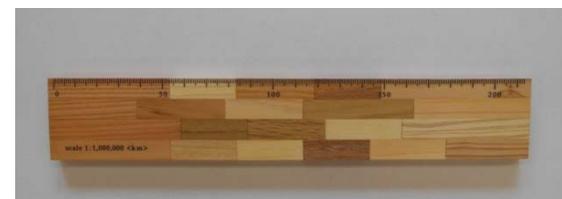
○根羽村森林組合がまとめ役となり、**矢作川流域市町村**への木づかい推進を行った。

### 【成果】

- 動く木のおもちゃをWGで体験するとともに、**興味を引くアイテムを選抜した。**
- 安城市や豊田市における木づかい推進では、活動が高く評価された。安城市では、**カーボンオフセットを活用した公民館への巡回が予定されている。**  
また、豊田市では、**プレイスメイキングによる集客力の大幅アップが実証された。**
- 流域ものさしの製作においては、WGの中より木材提供の申し出があった。また、製作にあたっては、**事例集の取材先にも声を掛けることが提案された。**



プレイスメイキングによってにぎわう駅前広場（豊田市）



流域ものさし（試作品）

# 6.1 山部会の活動進捗報告（今年度）

## ④木づかいガイドライン | 活動の成果と課題

- どこでもシリーズを代表する「根羽物置」は、市民に好評であることが周知され、アフターケア等についての意見交換を行った。
- 根羽スギを用いた温泉施設（中房温泉）の視察を行った。
- 根羽村では、小学生が源流から河口を自転車で走破したことが周知された。今後、小学生を対象とした流域を自転車で下るイベントを実施することで検討されている。

### 【課題】

- 山村担い手づくり事例集、山村ミーティングとの連携強化
- WGにおける展開方法、役割分担の検討



根羽物置



小学生が書いた矢作川走破のレポート

# 6.1 山部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

## 【山部会3ヶ年の活動成果】

### ①山村再生担い手づくり事例集

- 取材先として、川・海の団体を選定し、**流域圏一体化に向けたきっかけ作り**を行った。（H26）
- 山村再生担い手づくり事例集は、3ヶ年で計64活動団体取材し、各年の成果をそれぞれ事例集Ⅰ,Ⅱ,Ⅲとして出版した。（H25～27）
- 山・川・海の部会の枠を越えた連携**により、取材・編集が行われた。（H25～27）
- 過去の取材者が取材される立場になったり、取材者と取材先が新たなイベントを開催したり、新たな人間関係が生まれた。（H26,H27）

### ②山村ミーティング

- WGにおいて、関連する他団体の活動等に関する情報共有を行った。（H25～27）
- 「各地域で実施されている活動と連携しながらできるところから進めていく」という年度初めの目標に対し、持ち回りで行われる山部会の会議に地元団体が出席した。（H26）
- 矢作川流域圏の規模が大きいこと、雇用主と被用者および林業従事者とボランティアの価値観が異なること、といった理由から、きこりに絞ったイベントの開催は難しいという認識を共有した。（H27）
- 豊田足助地区のもみじ祭りを山村ミーティングに活用できないかという意見が挙がった。（H27）

# 6.1 山部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

## 【山部会3ヶ年の活動成果】

### ③森づくりガイドライン

- 森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間での情報共有を行うことができた。（H25）
- 流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインの作成を行っている。（H26,H27）
- 流域の県・市村から**森づくりの事例および間伐面積の情報収集（現地視察含む）**を行い、現状と課題を明らかにした。（H26,27）
- 流域の特徴的な森林と巨木・並木について、**WGで意見交換を実施し、選定作業**を行った。所在地については、マップに表示し**見える化**を進めた。（H25～27）

### ④木づかいガイドライン

- ガイドライン作成に向けてWGの場で**ブレインストーミング**を行い、**活発な意見交換**ができた。（H25）
- 「矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る」という目標に対し、木づかいガイドラインの骨子を示し、WGで意見交換を行った。（H26）
- 市民・行政・学識者から見た木づかいの推進策をまとめた木づかいガイドライン(案)について意見交換を行い、とりまとめた。（H26）
- 「日本全国スギダラケ倶楽部矢作川流域支部」が結成され、木づかいライブ・スギダラキャラバンを展開した。（H26,H27）
- 流域ものさしの作成においては、WGで**製作方法を協議し、木材の収集を実施中**である。（H26,H27）
- カーボンオフセット**を活用した木づかいの検討、**プレイスメイキング**による**集客力**を実証した。（H27）

# 6.1 山部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

## 【山部会 今後の課題】

### 山村再生担い手づくり事例集

- 事例集の活用や市民への普及
- 事例集の効果の検証

### 森づくりガイドライン

- 流域自治体の森づくりに関する最新情報の把握および自治体への意見発信。
- 地域の森づくり（特徴的な森林等）の集約
- 構築したデータの公表および周知方法の検討

### 山村ミーティング

- きこり祭りに代わるイベントの検討
- 森林組合や地域の担い手との繋がりが強化

### 木づかいガイドライン

- 山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティングとの連携強化
- WGにおける展開方法、役割分担の検討

## 6.2 川部会の活動進捗報告（今年度）

（3ヶ年（H25～27）の目標）

- 矢作川本川では、現況把握・評価（カルテ作成）の取り組みを実践しながら、将来のあるべき姿（絵）を描く
- 家下川では、実施中の活動の取り組み効果を確認し、将来のあるべき姿（絵）を描くとともに、他の場所や他の支川への展開方法を検討
- 地先の課題では、関係機関調整の場の提供と（仮）専門家リストの作成・試行的運用、個別課題の情報共有、解決の方向性検討の進展

### <テーマ>

テーマ1：  
生き物の棲みやすい  
川づくり  
（上下流問題）

テーマ2：地先の課題

### <解決手法>

本川モデル・家下川モデル：

多様な物理環境と生物生息環境を創出するため、現地調査・勉強会等により課題に対する方針を定め、計画段階の工事・設計に対しての提言や関係者との協議を行う。

地先モデル：

（仮）専門家リストの作成、活動団体へのヒアリングを実施する

## 6.2 川部会の活動進捗報告（今年度）

川部会WGを7回と地域部会を開催

活動	日時	場所
第25回WG (豊田) 21名参加	5月29日 (金) 18:00-21:00	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第26回WG (豊田) 27名参加	6月29日 (月) 10:00-12:30	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第27回WG (長野) 17名参加	8月6日 (木) 12:30-16:00	・中央構造線博物館 ・小渋ダム
第28回WG (豊田) 20名参加	9月29日 (火) 13:30-15:30	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第29回WG (豊田) 21名参加	10月13日 (火) 10:00-12:00	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第30回WG (岡崎) 19名参加	11月11日 (木) 13:30-16:00	・矢作古川分派施設 ・矢作古川頭首工
第31回WG (豊田) 20名参加	12月18日 (金) 13:30-16:00	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第7回地域部会 (豊田) 19名参加	1月18日 (月) 13:30-16:00	・豊田市職員会館 2階第1会議室

## 6.2 川部会の活動進捗報告（今年度）

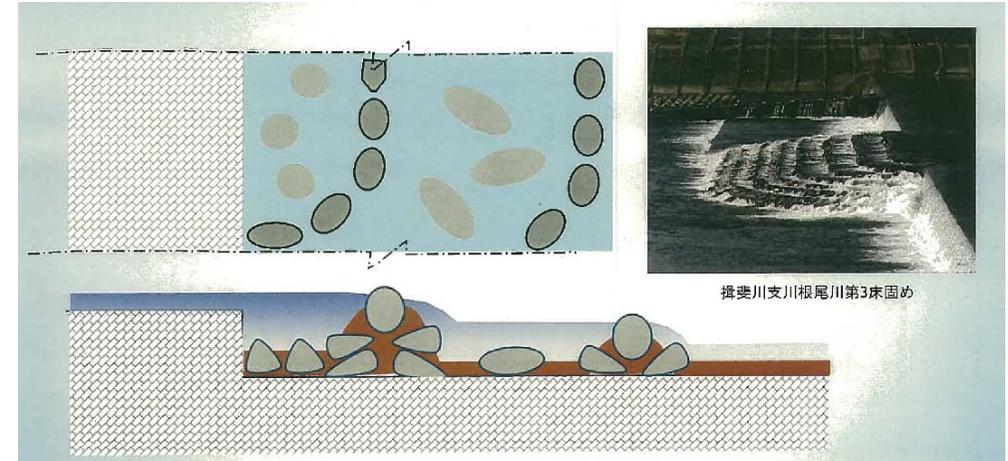
### ①本川モデル | 今年度の活動より分かったこと

#### 【今年度の活動より分かったこと】

##### ＜生き物の移動障害(本川合流箇所)について＞

- 加茂川の段差改善を目的として、木杭を用いた魚道を用いる予定であったが、**既存施設の構造上設置が難しい。**

⇒新たに**自然石を用いた棚田式魚道の設置が提案**され、試行的に施工することになった。



仮設魚道（自然石を用いた棚田式魚道）の設置案

##### ＜河床のアーマコート化について＞

- 先進事例として小渋ダムを見学**し、洪水時の調節方法や土砂バイパストンネルの運用について学んだ。
- 総合土砂管理計画策定までの手順、河川環境WGで取り組まれている内容の報告を受けた。



先進事例（小渋ダム）の見学

## 6.2 川部会の活動進捗報告（今年度）

### ①本川モデル | 今年度の活動より分かったこと・今後の課題

#### <川の微地形の多様性（良い瀬・淵・ワンド）について>

- 白浜工区では、大同大学によるモニタリングが継続的に実施され、その結果が周知された。

#### <その他（本川モデルすべての課題に関連）>

- 豊田市の矢作川河川環境活性化プランの検討状況について報告を受け、意見交換を行った。



矢作川河川環境活性化プラン簡易説明資料



大同大学によるモニタリング成果報告



矢作川河川環境活性化プランの検討状況報告

#### 【今後の課題】

- 白浜工区等のモニタリングの継続的な実施
- 加茂川の魚道設置後のモニタリング
- 関連する自治体（豊田市、岡崎市、安城市、碧南市、西尾市）における今後の計画の確認

## 6.2 川部会の活動進捗報告（今年度）

### ②家下川モデル | 今年度の活動より分かったこと

#### 【今年度の活動より分かったこと】

##### ＜情報不足について＞

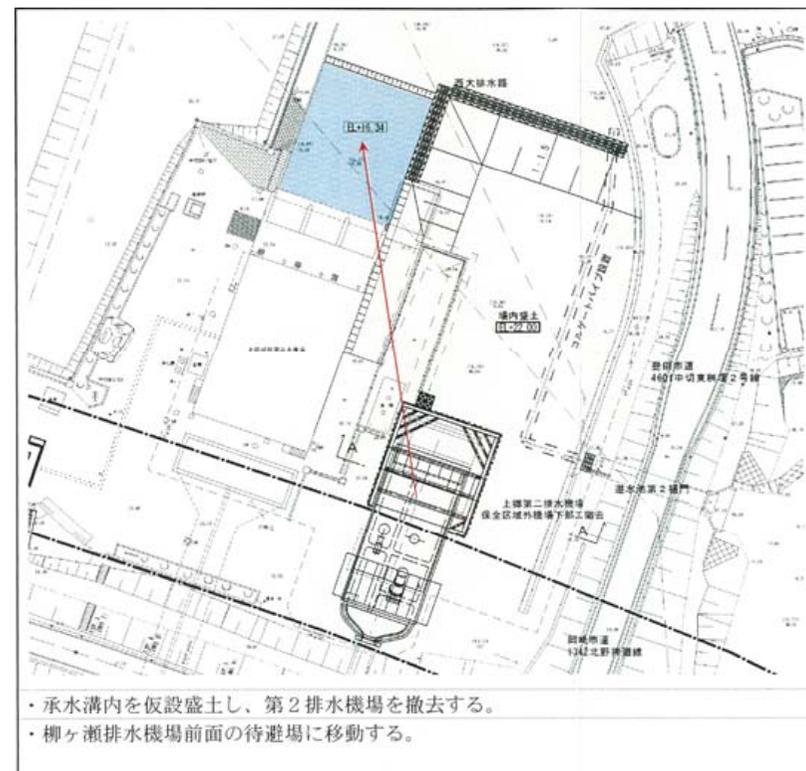
- 愛知県豊田加茂農林水産事務所から、家下川湛水防除事業の説明を受け、意見交換を行った。  
⇒家下川に生息する生き物に配慮した計画検討を促すことができた。

##### ＜生き物の移動障害について＞

- 家下川周辺の段差については、その構造や水量、管理者が異なる等の関係上、解消は困難であることが分かった。
- 各施設の管理団体を整理し、段差解消についての最良案を模索している。

##### ＜生き物の棲みかの不足について＞

- 愛知県豊田加茂農林水産事務所との意見交換により、生き物（魚）に配慮した計画が盛り込まれることになった。  
⇒前池内の浚渫は、部分的に30～40cmの深みをつくることで、水深を確保する。  
⇒越冬魚の段階的な待避計画



越冬魚の待避計画案

## 6.2 川部会の活動進捗報告（今年度）

### ②家下川モデル | 今年度の活動より分かったこと・今後の課題

<ひょうたん池（長池）の水量不足について>

○風車式の揚水機を用いた水量確保という提案があった。

<他支川での活動展開について>

○生き物の移動障害に対する他河川の対応について、矢作古川分派施設や矢作古川頭首工を見学



矢作古川分派施設の見学



矢作古川分派施設コンクリート底盤状況の見学  
(魚道としての機能についての確認)



広田川における外来種（カワヒバリガイ）の生育確認

### 【今後の課題】

- 関係する自治体を交えた検討の実施
- 家下川湛水防除事業の最終的な計画の確認

# 6.2 川部会の活動進捗報告（今年度）

## ③地先モデル | 今年度の活動より分かったこと・今後の課題

### 【今年度の活動より分かったこと】

#### 〈モデル上の課題について〉

- 活動団体のリストはインターネットによる収集が概ね完了した。
- 山部会の「山村再生担い手づくり事例集」作成活動では、川部会員も参加し、山・海・川の流域圏全体を対象とした取材を実施していることから、川部会独自の活動リストおよびマップを作成するのではなく、山村再生担い手づくり事例集と連携して資料整理を進めていく。

### 【今後の課題】

- （仮）専門家リストの更新

活動団体リスト案（一部抜粋）

参加者	ホームページURL	参加実績	行政ホームページ
豊橋河川事務所	<a href="http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaiji/yahagigawa/ryuiki-kondan/pre-index.html">http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaiji/yahagigawa/ryuiki-kondan/pre-index.html</a>	矢作川流域圏懇談会事務局	
Bio de Bio アド清流環境会	<a href="http://www.bio-de-bio.jp/">http://www.bio-de-bio.jp/</a>	矢作川流域圏懇談会	
伊勢・三河清流ネットワーク	<a href="http://www.isemikawa.net/">http://www.isemikawa.net/</a>	矢作川流域圏懇談会	
奥矢作森林塾	<a href="http://shinini.net.jp/">http://shinini.net.jp/</a>	矢作川流域圏懇談会	
乙川を美しくする会	<a href="http://kenki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00000">http://kenki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00000</a>	矢作川流域圏懇談会	
上矢作ダム問題連絡協議会		矢作川流域圏懇談会	
上矢作町自治連合会		矢作川流域圏懇談会	
加茂川を美しくする会		矢作川流域圏懇談会	
中部森林開発研究会	<a href="http://www.szken.co.jp/chushinken.html">http://www.szken.co.jp/chushinken.html</a>	矢作川流域圏懇談会	
鳥川ホテル保存会	<a href="http://www2.gol.com/users/nekona/pa/hotaru/torikawa/index.html">http://www2.gol.com/users/nekona/pa/hotaru/torikawa/index.html</a>	矢作川流域圏懇談会	
豊田市自然愛護協会		矢作川流域圏懇談会	
豊田市親王町自治会		矢作川流域圏懇談会	
西三河野鳥の会	<a href="http://nbirdohki.net/">http://nbirdohki.net/</a>	矢作川流域圏懇談会	
早川をよみがえらせる会	<a href="http://kenki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00001">http://kenki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00001</a>	矢作川流域圏懇談会	
三河清浄化市民塾	<a href="http://kenki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G0000150">http://kenki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G0000150</a>	矢作川流域圏懇談会	
水と緑を守る会・岡崎	<a href="http://mizaki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00001">http://mizaki365.net/gnko/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00001</a>	矢作川流域圏懇談会	
森を再生する会	<a href="http://www.katchu.ne.jp/~kaminu18/index.html">http://www.katchu.ne.jp/~kaminu18/index.html</a>	矢作川流域圏懇談会	
家下川を美しくする会	<a href="http://kaminu-yasitakawa.jp/index.html">http://kaminu-yasitakawa.jp/index.html</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川「川会」	<a href="http://yahagigawa.jp/kaiji/">http://yahagigawa.jp/kaiji/</a>	矢作川流域圏懇談会 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会	
矢作川学校	<a href="http://www.yahagigawa.jp/kawasaki/">http://www.yahagigawa.jp/kawasaki/</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川環境技術研究会	<a href="http://www.yakanken.jp/">http://www.yakanken.jp/</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川源流の森わば	<a href="http://ibaki.livedoor.jp/~nepoymn/2w2">http://ibaki.livedoor.jp/~nepoymn/2w2</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川森林塾	<a href="http://toyota-shininiatsuendo.net/gnko08/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00011">http://toyota-shininiatsuendo.net/gnko08/mypage/mypage_group_info.php?gid=G00011</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川水系森林ボランティア協議会	<a href="http://yamoriyou.com/">http://yamoriyou.com/</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川水旅館	<a href="http://www.yahagi-aqua.com/">http://www.yahagi-aqua.com/</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川治水史研究会		矢作川流域圏懇談会	
矢作川天然アユ調査会	<a href="http://ayurichosa.net/">http://ayurichosa.net/</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作川をきれいにする会		矢作川流域圏懇談会	
矢作水源フォレストランド協議会	<a href="http://shinini.net.jp/yahagi-forestland/index.html">http://shinini.net.jp/yahagi-forestland/index.html</a>	矢作川流域圏懇談会	
矢作古川を美しくする会		矢作川流域圏懇談会	
櫻羽村森林組合	<a href="http://nobaforest.net/">http://nobaforest.net/</a>	矢作川流域圏懇談会	
恵南森林組合	<a href="http://k-nan.jp/">http://k-nan.jp/</a>	矢作川流域圏懇談会	
豊田森林組合	<a href="http://www.woodytoyota.net/">http://www.woodytoyota.net/</a>	矢作川流域圏懇談会	
岡崎森林組合	<a href="http://okamori.org/">http://okamori.org/</a>	矢作川流域圏懇談会	

## 6.2 川部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

### 【川部会3ヶ年の活動成果】

#### ①本川モデル

- 安永川合流箇所に対しては、「取り付け護岸のコンクリートの覆土」を提案し、国交省により**一部護岸における覆土が実現した。**（H25）
- 渡合護岸補修工事の長大なコンクリート護岸とブロックによる根固め工に対して、現場レベルで自然環境への影響を少しでも軽減できるよう提案し、国交省により**コンクリート護岸の延長縮小、ブロック工から捨石工に変更された。**（H25）
- 豊田大橋下流～平戸大橋下流の区間について現地調査を実施し、「**矢作川の河川環境の方向性**」についてとりまとめた。（H25）
- 久澄橋下流の河道内の地形状況について、**大同大学、国交省による現地測量を実施した。**（H26）
- 矢作川漁協とともに失われつつある瀬の状況を現地確認して課題を共有し、良好な河川(瀬・淵)の状態に回復させるための方向性について**矢作川漁協との意見交換をスタートした。**（H26）
- 大同大学により、**白浜工区のモニタリングが実施された。**（H26～27）
- 加茂川の移動障害解消方法を模索・検討し、**WGメンバーと国交省との協働で柵田式魚道を試行的に設置すること**となった。（H26～H27）
- 総合土砂管理検討委員会における検討状況の情報共有、先進事例の見学（小渋ダム）を実施した。（H26～27）
- 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会における検討状況について情報共有を行った。（H27）

## 6.2 川部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

### 【川部会3ヶ年の活動成果】

#### ②家下川モデル

- 矢作川本川との合流点にある**矢板の一部を切り欠き**、通水の状況や生き物の移動阻害の**改善効果を確認**した。（H25）
- 家下川リバーキーパーズの活動報告により、「草の植え付け」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」の設置効果を情報共有した。また、WGにより**越冬マスの設置効果が大きい**ことも確認した。（H25）
- 流域圏懇談会の場が、関係者（愛知県、豊田市、豊田土地改良区、国土交通省、住民）の意見を収集し、**合意のためのステーション**となった。（H26）
- 流域圏懇談会の場が、関係者（愛知県、豊田市、豊田土地改良区、国土交通省、住民）の意見を収集し、**合意のためのステーション**となった。解決策の一つとして家下川に生育する**生き物に配慮した改修工事計画検討を促す**ことができた。（H27）
- 家下川湛水防除事業の意見交換により、**改修工事計画の中に前池内の水深確保のための浚渫や越冬魚の待避計画が盛り込まれる**こととなった。（H27）

#### ③地先モデル

- 活動団体にヒアリングを行い、専門家リストの情報収集を行った。（H25）
- 活動団体にヒアリング及びアンケートを行い、専門家リスト（案）を作成した。（H26）

## 6.2 川部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

### 【川部会 今後の課題】

#### ①本川モデル

- 意見交換やモニタリングの継続
- 関係する自治体における今後の河川利用等に関する計画の確認
- 課題に対する進捗状況の整理と役割分担の明確化

#### ②家下川モデル

- 関係する管理者を交えた検討
- 他支川での活動展開のための効果の整理

#### ③地先モデル

- リストの定期的な更新
- 「山村再生担い手づくり事例集」との連携

## 6.3 海部会の活動進捗報告（今年度）

（3ヶ年（H25～27）の目標）

- フィールドワークを主体とするWGや勉強会などの実施により、積極的な情報発信・情報共有を図り、流域圏市民の海への理解を深める。
- 海に大きく影響する流域圏問題（土砂、ごみ等）について、流域圏市民全体で問題意識を共有し、話し合いを進め、様々な主体ができることより実践する。また、将来的に解決に結びつけるためのヒントを関係者の話し合いによってそれぞれの考え方を整理していく。

<テーマ>

<解決手法>

ごみ・流木の問題

被害軽減：干潟・水辺のゴミ、流木対策検討に向けた調査

豊かな海の生物調査

理想追求：市民、学識者等の様々な調査より学習・分析

海と人の絆再生

人づくり：心理的・物理的アクセス改善、学校等との連携

干潟・ヨシ原再生

自然再生：川と海の連携による干潟再生

## 6.3 海部会の活動進捗報告（今年度）

平成27年度は海部会WGを5回、地域部会を1回開催

活動	日時	場所
第25回WG (西尾) 20名参加	6月6日(金) 10:30-12:00	・西尾市役所 1F 多目的室
第26回WG (西尾) 19名参加	8月20日(土) 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟2F 第4会議室
第27回WG (吉良町) 5名参加	9月13日(日) 9:00-11:30	・吉良町宮崎漁港、三河湾沖
第28回山海合同WG (東幡豆) 28名参加	9月25日(金) ~ 26日(土) 13:00-	・東幡豆漁業組合 会議室
第29回WG (西尾) 16名参加	12月25日(金) 13:30-16:00	・西尾市役所会議棟2F 第2会議室
第7回海の地域部会 (西尾) 20名参加	2月4日(木) 15:00-17:00	・西尾市役所会議棟2F 第2会議室

## 6.3 海部会の活動進捗報告（今年度）

### ①ごみ・流木の問題 | 今年度の活動より分かったこと・今後の課題

#### 【今年度の活動より分かったこと】

##### ＜海底ごみの現状把握＞

- 西尾市吉良町三河湾沖で実施された「海の生き物調査」（矢作川をきれいにする会主催）に参加し、底引き網で引き上げられた網の中に弁当のプラスチックや空き缶が多く入っているなど、海底のごみの現状を確認することができた。

##### ＜ごみマップの活用について＞

- 国土交通省とプロジェクト保津川が開発した「ごみマップ」は、ホームページ上で簡単な操作でごみ情報を登録することができるサイトである。今後は、海部会としてユーザー登録し、ごみの実態調査の記録に活用することとした。これまでのごみ調査の結果も当サイトで登録していくことになった。

#### 【今後の課題】

- ごみマップを普及し、活用する。
- 流木処理について、行政を交えた解決策を検討する。
- ごみの実態を定期的に把握するとともに、市民を交えた出水後のごみ調査など問題意識を広めること。



「海の生き物調査」の調査風景



ごみマップの活用例

## 6.3 海部会の活動進捗報告（今年度）

### ②豊かな海の生物調査 | 今年度の活動より分かったこと・今後の課題

#### 【今年度の活動より分かったこと】

##### ＜矢作川自然再生計画に関する勉強会の開催＞

- 矢作川における干潟・ヨシ原の整備の進捗状況は、**計画目標（整備面積）に対して、10%程度であることが分かった。**
- ヨシ原は**0.8m以上の地盤高**で、他の種の侵入等により生育阻害をうけることが周知された。

##### ＜造成干潟における生物モニタリング＞

- H27.3に、矢作ダムの土砂を使った干潟造成地において、現況把握が行われた（山・海合同部会）。その結果、細砂が流出し、礫が露出したところにアオサが張り付いていたが、**アサリの生息も多数確認され、生物の生息可能な環境が整いつつあった。**

#### 【今後の課題】

- 造成干潟の整備効果を検証するための、**継続的な生物モニタリングが必要。**
- 子供たちの学習の場となりうる箇所について、川部会（家下川）、山部会（根羽村）とも連携して進めていく。



造成干潟の現状(上)と1すくいで採れたアサリ(下)

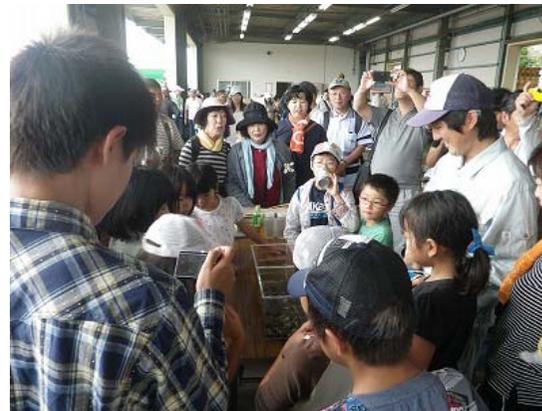
## 6.3 海部会の活動進捗報告（今年度）

### ③海と人の絆再生 | 今年度の活動より分かったこと・今後の課題

#### 【今年度の活動より分かったこと】

##### ＜「海の生き物調査」（矢作川をきれいにする会主催）への参加＞

- イベントには子供連れの家族単位での参加者が多く(定員超過)、**一般市民の関心の高さがうかがえる**とともに、この企画が継続的に実施されており、毎年申込者が多いという現状からも**環境教育としての普及効果が高い**ことがわかった。



「海の生き物調査」の実施状況

##### ＜漁協関係者との懇談＞

- 山部会との合同WGの場に漁協関係者が参加し、**山から流れ出る水と土の恩恵を受けて海の環境が成り立っていることから、互いに協力する必要がある**という意識の共有を行った。また、山村および漁村における**後継者不足の問題、地域活性化対策**など共通する問題についての意見交換を行った。



漁協者を交えた意見交換会の様子

##### ＜啓発イベントの検討＞

- 総合的な**土砂管理に関する啓発イベントの必要性**について、山部会メンバーと意見交換を行った。

#### 【今後の課題】

- 海部会が主体**となって、本活動のPRイベントや海への意識を高めるための周知活動が必要。
- 三河湾の環境改善に向け、**三河湾大感謝祭との協働**を模索。
- 山・川・海とのつながり**について**情報発信を行う流域圏懇談会の拠点づくり**とPR手法の検討。

## 6.3 海部会の活動進捗報告（今年度）

### ④干潟・ヨシ原再生 | 今年度の活動より分かったこと・今後の課題

#### 【今年度の活動より分かったこと】

##### 〈造成干潟における地形変化計測〉

山部会との合同WGにおいて、海部会WG造成干潟の現地視察を実施

- ・細砂の流出やアサリの稚貝の生息状況について確認
- ・**波浪等の影響による土砂の流出・堆積を把握するための手法（リング法）を採用し、実際に現地に設置**



山・海合同部会で行った造成干潟の状況把握

##### 〈愛知県水産試験場からの研究報告〉

「ダム堆積砂を利用した干潟・浅場の造成」として、矢作ダムの堆積砂を利用した干潟水槽実験やアサリ稚貝の着底試験、海域における海砂との比較試験に関する研究結果報告を受け、意見交換を行った。

- ・干潟水槽実験では、**ダム砂と海砂による生物の生息量、アサリ稚貝の定着状況に大きな差がなかった**
- ・**海域での比較試験では、ダム砂でアサリ稚貝の発生が良かった**



愛知県水産試験場からの研究報告

#### 【今後の課題】

- ダム堆積砂による造成干潟の有効性より、**新たな干潟創出の場を検討することが必要。**
- 干潟と藻場のパッチ状管理等、矢作川流域圏懇談会としての三河湾再生プロジェクトへの提言。
- 流域圏で佐久島のような賑わいの場づくりを検討。

## 6.3 海部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

### 【海部会3ヶ年の活動成果】

#### ①ごみ・流木の問題

- ごみ・流木調査を実施した。（H25,H26）
- ごみ・流木調査票を作成した。（H25）
- 山・川部会メンバーが参画した。（H26）
- 子どもと親の反応を直接確認した。（H26）
- 海底ゴミの実態を把握した。（H27）
- 矢作川流域圏懇談会活動として、ごみマップのユーザー登録を行う予定である。（H27）



ごみの実態調査の様子(H25)



西の浜と佐久島における漂着ゴミの調査(H26)



#### ②豊かな海の生物調査

- 干潟の生き物調査を実施した。（H25,H26）
- 三河湾の水質、底質を把握した。（H25）
- 干潟の生き物調査の調査方法を確立した。（H25）
- 三河湾の干潟・浅場造成に関する行政計画や事業の内容を把握した。（H26）
- 鳥類観察を通じて、干潟後背地の土地利用の問題を共有した。（H26）
- 海底の生き物等から三河湾の環境を確認した。（H26）
- 造成干潟における専門的な調査は、事務所主導で実施することとする。（H27）
- 矢作川流域圏懇談会の活動としては、4月以降に現地視察を行う。（H27）



三河湾貧酸素水塊調査(H25)



海辺の鳥類観察の様子(H26)

## 6.3 海部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

### 【海部会3ヶ年の活動成果】

#### ③海と人の絆再生

- 海部会関連機関主催のイベントに参加した。**市民参加者が多く**、関心の高さを把握することができた。（H26,H27）
- アンケート調査を通じて、**子どもや保護者の海への意識を把握**した。（H26）
- 山部会との合同会議の場**に漁業関係者が出席し**林業、漁業を取り巻く現状について意見交換**を行った。（H27）



干潟調査(H25)



干潟観察会後のアンケート実施状況(H26)

#### ④干潟・ヨシ原再生

- 干潟の生き物調査を得た。（H25）
- 干潟の生き物調査の調査方法を確立した。（H25）
- ダムของ砂の実態調査を実施した。（H25）
- 矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験施工に向け、関係機関等と方向性を共有した。（H26）
- 山部会メンバーと合同で造成後の現状を視察した。（H27）
- 造成干潟の形状変化を把握する手法としてリング法を採用し、継続的にモニタリングすることとした。（H27）



矢作ダムの見学(H25)



造成干潟の検討(H26)



造成後の観察会(H27)

## 6.3 海部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

### 【海部会 今後の課題】

#### ①ごみ・流木の問題

- 流木問題については、行政を交えて解決策を検討する必要がある。
- ごみの実態を定期的に把握するとともに、市民を交えた出水後のごみ調査など問題意識を広める必要がある。

#### ③海と人の絆再生

- 海部会が主体となって、矢作川流域圏懇談会の活動において、本活動のPRイベントや海への意識を高めるための周知活動が必要である。

#### ②豊かな海の生物調査

- 造成干潟の整備効果の検証として、継続的な生物モニタリングが必要である。

#### ④干潟・ヨシ原再生

- ダム堆積砂による造成干潟の有効性より、新たな干潟創出の場を検討することが必要である。

# 7. 流域連携テーマに関する成果

## 【流域連携テーマに関する成果①】

平成26年度の活動では、勉強会において「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つの課題を抽出され、主務担当者を決定した。その後、部会の枠を越えた河川整備計画の内容や現地視察等の勉強会を通して、基礎的な知識を共有するとともに、山・川・海の相互理解を図られてきた。

平成27年度は、5月に実施された会議を受け、WG等で流域連携テーマに関する活動を行った。

### ① ごみ・流木問題

- トンボロ干潟でのごみの漂着状況確認
- 西尾市吉良町三河湾沖で実施された「海の生き物調査」（矢作川をきれいにする会主催）への参加による海底ごみの現状把握
- HP上で情報管理が可能なごみマップを用いたごみの実態調査記録の実施合意



トンボロ干潟でのごみの漂着状況確認



底引き網による海底ごみの現状確認



ごみマップ  
(国土交通省とプロジェクト保津川が開発)

# 7. 流域連携テーマに関する成果

## 【流域連携テーマに関する成果②】

### ② 土砂問題

- 小渋ダム土砂バイパストネル事業の視察
- 総合土砂管理検討委員会検討状況に関する情報共有
- 矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、**実施主体、運搬方法、取組み方法等の検討**



土砂バイパストネル（呑口）  
工事状況見学



総合土砂管理検討委員会における  
検討状況報告



### ③ 木づかい

- 木づかい推進における、検討・成功事例（**カーボンオフセットの利用計画やプレイスメイキングの効果**）の周知と意見交換
- 流域ものさしの製作における、**材料の確保、山村再生担い手づくり事例集で培われた人脈の活用**についての意見交換



木づかい推進の様子（安城市）



プレイスメイキングによる集客効果（豊田市）



矢作川の流域材で製作した試作品（流域ものさし）

# 7. 流域連携テーマに関する成果

## 【市民会議の成果】

### ①市民会議で得られた意見

- 今後は**山川海の連携**で一緒にやっていくことに**重点を置く**というのはいかがでしょうか
- 国土交通省として**もっと宣伝、PRしていく必要がある**のではないかと
- 矢作川流域圏の活動は、全国に胸を張って説明できる非常に**誇らしい先進事例**である
- **山・川・海連携のために一つのキーワードが必要**だ
- 9年目になった時に総括シンポジウムを実施し、ここで**何を発表するかを考えて残りの3年間を進めていくべき**だ
- 矢作川流域圏懇談会は、**川部会が鍵**である
- 山・川・海連携に関わる**イベントを年1回行うべき**である
- **木づかい、土砂問題の双方に関するPR**方法として、木の船に土砂を乗せて流したり、スギで舟を作って川や海にまつわる生き物や土砂を量るといった様々なPRイベントが考えられる
- **市民が主体である**という位置づけを基軸に、市民が頑張れる仕組み、制度を確立できるようにすべきだ
- 市民会議の出席者が以前と比べ**大きく減少**している。特に、以前よく発言していた人が**みられなくなった**

### ②全体会議の進め方について

- 全体会議では、**何に重点を置いた議題とするか**が重要だ
- 成果としては各部会を出しつつ、**どのように3部会で一緒にやるかという内容を全体会議で決めていくべき**だ
- **これからの3年間に何をやっていくべきか**について多くの時間をかけて議論すべきだ

## 8. 今後の運営方針について

### 【背景】

#### (1) 課題解決に向けた山・川・海部会の活動が活発化

- 各部会とも課題解決に向けた具体的な活動が動きだし、各部会でその成果が出始めている。

#### (2) 流域連携を話し合う場を新たに立上げ（H26～）

- 各部流域連携に関する取組みについて、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマに絞った。
- テーマごとに主務担当者を選定し、検討方針、進め方について、市民企画会議、市民会議、全体会議を通じて方向性を確認した。

#### (3) 河川整備計画のフォローアップ（H26～）

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取組みを全体会議で行くこととした。
- 全体会議で河川整備計画をフォローアップする前に、勉強会を開催するといった工夫を行った。

# 8. 今後の運営方針について

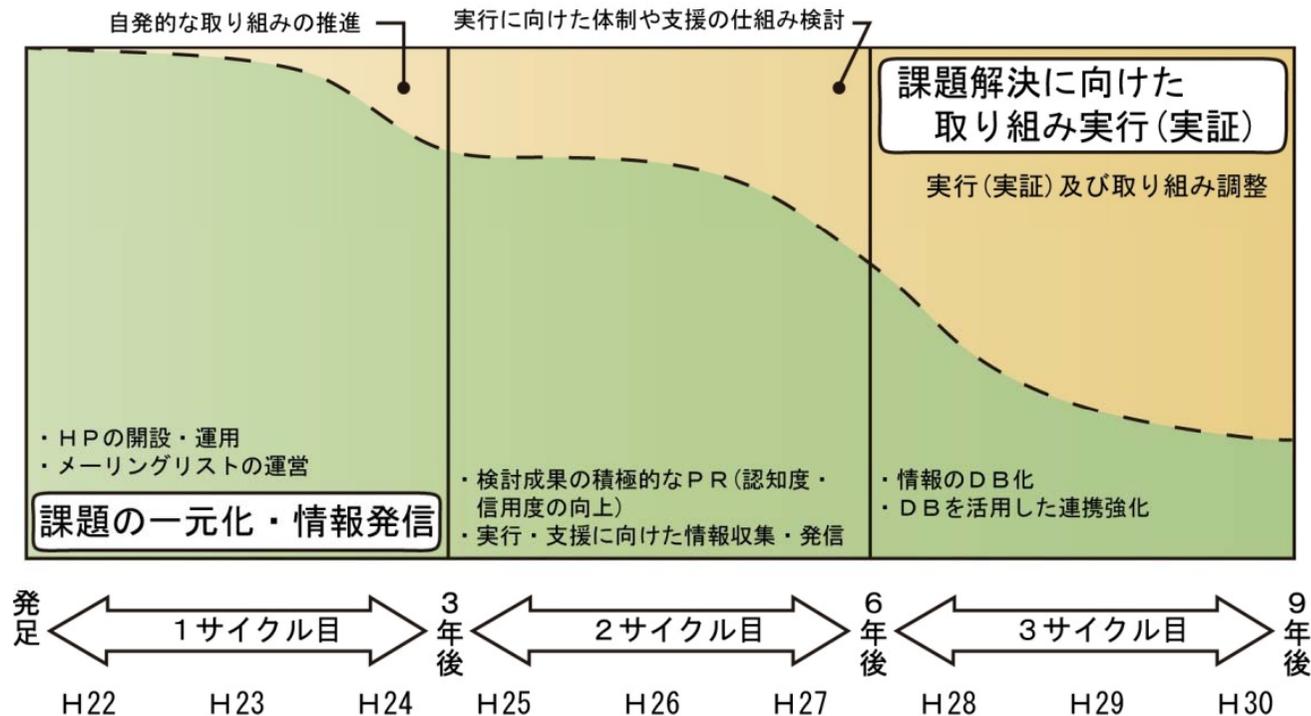
## 【懇談会の目的・運営方針】

### 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

### 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 来年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



## 8. 今後の運営方針について

### 【懇談会の目標①】

#### (1) 各部会の活動成果の見える化

- 平成28年度からは、課題解決に向けた実行(実証) を行っていく段階に移行する
- これまでの各部会の活動成果を見える化することで、目標を明らかにしていく  
→産官民学が果たすべき役割も見えてくる→一層の活動進捗・合意形成につながる

部会	成果の見える化に向けた取組み内容（案）
山	①H25～27の山村再生担い手づくり事例集のMAP化、ホームページへの掲載 ②代表的な森づくりガイドラインの情報のパンフレット化 ③木づかいガイドラインの作成・公表
川	①川のあるべき姿の共有（まずは（仮）保全エリアマップの作成） ②活動団体へのヒアリング結果のデータベース化（山①との連携） ③活動団体のMAPの作成/専門家リストの充実と更新
海	①ごみ・流木調査の一斉実施とデータベース化、MAP化 ②生き物モニタリング調査のデータベース化、MAP化

# 8. 今後の運営方針について

## 【懇談会の目標②】

### (2) 山・川・海メンバーの相互理解の促進

- 山村再生担い手づくり事例集（山）と活動団体ヒアリング（川）は部会連携で行う
- 各WG活動の他部会への参加を積極的に呼びかけることを実施

山部会資料



部会間で異なる調査項目を統一し、情報共有をしやすいとする。

川部会資料

- 山：山村再生担い手づくり事例集
- 山：木づかいライブ・スギダラキャラバン
- 川：活動団体ヒアリング
- 海：ゴミ流木調査
- 海：漁業者との交流会
- 海：干潟(試験造成)モニタリング

### (3) 流域連携テーマ検討の具体化

- 市民会議などにおける流域連携テーマの話し合いの中で、各部会に望むことを話し合い、WGにフィードバックする

## 8. 今後の運営方針について

### 【懇談会の目標③】

#### (4) 河川整備計画のフォローアップの改善

- これまでは、整備量（率）からみた達成状況をフォローアップとして実施してきたが、今後はフォローアップの取組みを通じて流域圏一体化につなげることを目指す。

- |                 |  |
|-----------------|--|
| ①整備量（量）からみた達成状況 | → アウトプット指標化による効果の把握  |
| ②流域圏懇談会との関わり    | → 流域圏一体化に向けてどのような活動に活用されたかを定性的に把握<br>(ex.現地見学、調査モニタリング、事業への提案など) |
| ③整備による効果の発現状況   | → 流域圏懇談会の活動を通じて得られた整備効果（アウトカム）の把握<br>(ex.再生した干潟や樹木伐開のモニタリングなど)   |

**来年度からは、①～③すべてにおいて、本格的に実施する**

## 9.1 山部会の活動方針

### 部会の今後の3ヶ年の目標（案）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係とを連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

### テーマ別の活動目標（案）

#### 山村再生担い手づくり事例集

- ・ H25～H27までの3ヶ年の成果をホームページ掲載するとともに、PR力のある山村再生担い手づくり事例集とする。これまでに、取材で構築された人間関係を活用したイベントの開催を計画する
- ・ イベントの実施（山村ミーティング、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携）
- ・ 9年間の総括（イベントの10年目以降の継続の検討）

# 9.1 山部会の活動方針

## 山村ミーティング

- 新たなイベントの計画、試行
- イベントの実施（山村再生担い手づくり事例集、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携）
- 9年間の総括（イベントの10年目以降の継続の検討）

## 森づくりガイドライン

- 岡崎市、豊田市における森づくりの動きについて、WGとして把握し、情報共有と意見交換を行う。
- 岡崎市と豊田市で、共通理解となった水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりの理念と具体的な方策をとりまとめる
- 9年間の総括（矢作川流域圏として、統一性のある森づくりガイドラインの発信）

## 木づかいガイドライン

- 木づかいライブ・スギダラキャラバンの活動を継続するとともに、実績を整理する
- 木づかいを推進した安城市、豊田市、岡崎市、恵那市等の実績をパッケージ化（＝矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインの作成）する
- 9年間の総括（パッケージを流域の市町村に水平展開する）

## 9.2 川部会の活動方針

### 部会の今後の3ヶ年の目標（案）

- これまでの検討をもとに、他地区、他支川へのモデルとなるノウハウをとりまとめ、流域圏全体に対して広く情報共有、情報発信していく。
- 具体的な取り組み箇所について、継続的なモニタリングと順応的管理を実践する。
- 関係する委員会、自治体、団体と継続的に意見交換することにより、積極的な連携を進めていく。

### テーマ別の活動目標（案）

活動は、流域圏懇談会メンバーが主体となって実行し、必要に応じてワークショップを実施する。

#### 本川モデル（1）

- ①白浜工区周辺のモニタリング
  - ・白浜工区等モニタリングの継続実施
  - ・工区周辺の生き物に関する資料の収集
  - ・相互関係の把握
- ②加茂川棚田式魚道のモニタリング・評価
  - ・加茂川棚田式魚道のモニタリング及び改良案の検討（順応的管理）
  - ・段差解消手法としての評価

## 9.2 川部会の活動方針

### 本川モデル (2)

#### ③保全エリアに関する検討

- ・保全エリアに関する基礎資料（国交省資料及び豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討資料等）の収集
- ・基礎資料に基づく保全エリアについての検討
- ・矢作川のあるべき姿の検討

#### ④関係者との積極的な連携

- ・関係自治体（豊田市、岡崎市、安城市、碧南市、西尾市）における河川環境整備、河川利用等に関する計画の把握と積極的な連携
- ・関係する委員会（総合土砂流域管理委員会、豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会等）における検討状況の把握と意見交換の実施
- ・関係する団体（矢作川漁協等）との継続的な意見交換の実施

## 9.2 川部会の活動方針

### 家下川モデル

#### ①家下川における現況整理と情報発信

- ・関係する自治体を交えた段差解消手法の検討
- ・モデルとしての公表資料作成方針の検討
- ・当初課題、検討中の問題点、検討経緯を整理と課題解決のための検討ノウハウとりまとめ
- ・河川、堤防、排水機場、公園、水門等の家下川における関係管理者マップの作成
- ・生き物調査または既存調査資料による生き物マップの作成
- ・他支川への展開の検討

#### ②家下川湛水防除事業に関する対応

- ・最終計画の確認と情報共有
- ・生き物への影響状況確認

### 地先モデル

- ・「山村再生担い手づくり事例集」との連携
- ・（仮）専門家リストを定期的に更新し、充実を図る。

## 9.3 海部会の活動方針

### 部会の今後の3ヶ年の目標（案）

- 山部会、川部会との合同WGの場を年1回以上は設置するとともに、会員同士の交流を深め、部会間の各会員が協働して具体的な活動を実践する。
- 矢作川をフィールドとして環境活動を実践している団体、個人の方には本懇談会活動への参加を依頼し、同志の輪を広げる。
- 矢作川流域の山、川、海で活動する人、団体が気軽に集まることができ、みんなで情報を共有し、外部に発信することができる活動拠点の場をつくる。

### テーマ別の活動目標（案）

#### ごみ・流木問題

- 山部会、川部会および矢作川流域で活動する関係美化団体等と協働で、流域内一斉調査を実施する。
- ゴミマップHPを活用して、流域圏全体のごみマップを作成する。

#### 豊かな海の生物調査

- 造成干潟での生物モニタリング調査を懇談会メンバーが主体となって継続的に実施する
- モニタリング結果をもとに、造成干潟の整備効果について整理し、外部に情報発信する。

## 9.3 海部会の活動方針

### 海と人との絆再生

- 矢作川流域圏内（山、川、海）の小学生を対象に、環境教育を目的とした干潟観察会を開催する（人工干潟を対象）。
- 愛知県主催『海の大感謝祭』の場を借りて、懇談会主体の流域圏連携に関するイベントを山部会、川部会と協働で実施する。

### 干潟・ヨシ再生

- ダム上流の砂をダム下流へ運ぶ「砂の駅」構想について、山部会、川部会との合同プロジェクトと位置づけ、PRイベントを開催する。
- 河川内堆積土砂を活用した人工干潟の造成の実現に向けて、関係機関に働きかける。
- 効率的かつ計画的な干潟再生を目指すため、国（水産庁）および愛知県が策定する「干潟・藻場ビジョン」との連携を図る。

# 10. 流域連携テーマに関する活動方針

## ①ごみ・流木

- 海部会WGを中心に実施する  
ごみ・流木に関する検討のうち、国土交通省が開発した「ごみマップ」をベースにした成果を公開

## ②土砂問題

- 海部会WGおよび山部会WGが連携した「砂の駅」構想について、イベントを実施するとともに、流域圏としてのしゅみを形成

## ③木づかい

- 山部会WGで検討されている「流域ものさし」の製作と、このプロジェクトを基軸とした、次世代を担う子供たちも巻き込んだ考え方の展開
- 流域に住む小学生を対象に流域を自転車で下るイベントの具体化
- 移動時の体験種目として山村再生担い手づくり事例集の実用化

# 11. 河川整備計画フォローアップについて

## 実施項目

- ① 河川整備計画の概要
- ② 過去の主要な洪水
- ③ 治水（洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項）  
流域圏懇談会との関わり；現地での意見交換や見学
- ④ 利水（河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項）
- ⑤ 環境（河川環境の整備と保全に関する事項）  
流域圏懇談会との関わり；勉強会、現地でのヨシ植え等
- ⑥ 土砂管理（総合的な土砂に関する事項）  
流域圏懇談会との関わり；勉強会等

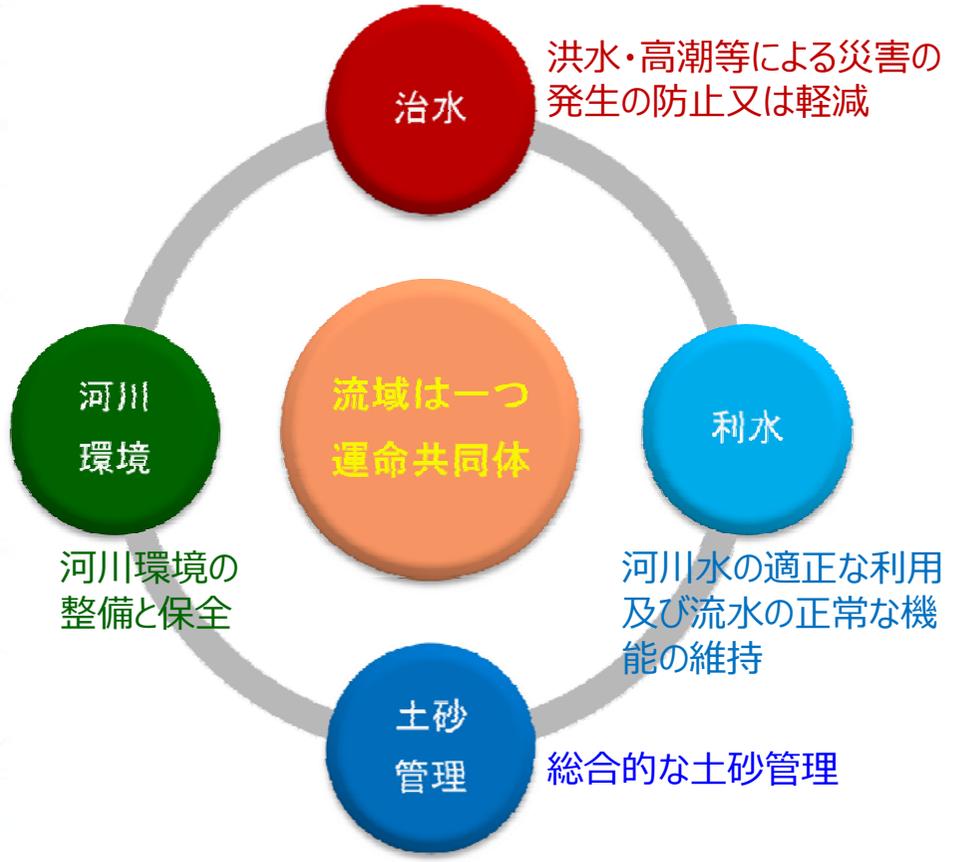
# ① 河川整備計画の概要



**対象区間**  
大臣管理区間、並びに本計画の目標の達成に必要な施策を講じる必要がある指定区間及び流域

**対象期間**  
整備目標に対し河川整備の効果を発現させるために必要な期間として概ね**30年間**

- 治水面・利水面の目標設定にあたっては、「矢作川水系河川整備基本方針」で示された将来計画に向け、段階的に安全河川整備計画の目標度を向上する計画目標を設定するとともに、その計画規模や整備水準を超える豪雨・高潮・濁水に見舞われたときには、被害を最小化できる信頼性の高い危機管理対策を講じていきます。
- 河川環境面の目標設定にあたっては、従来の矢作川の河川環境の特性を踏まえます。
- 土砂管理の目標設定にあたっては、土砂生産域から海岸まで流域一貫として捉えます。
- 矢作川における治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理等における諸課題を解決し整備計画の目標を達成していくために "流域は一つ、運命共同体"という共通認識を持ち、調和のとれた流域圏全体の持続的発展を目指します。



## ② 過去の主要な洪水

矢作川は過去に幾度も洪水氾濫を繰り返しています。  
 近年では、記憶に新しい平成12年9月洪水（東海（恵南）豪雨）により、大きな被害が発生しています。  
 平成12年9月洪水以降、矢作川本川では大規模な出水は発生していませんが、支川流域では平成20年8月末豪雨に代表される局所的な豪雨等により、大きな被害が発生しています。

### ◆主要災害一覧

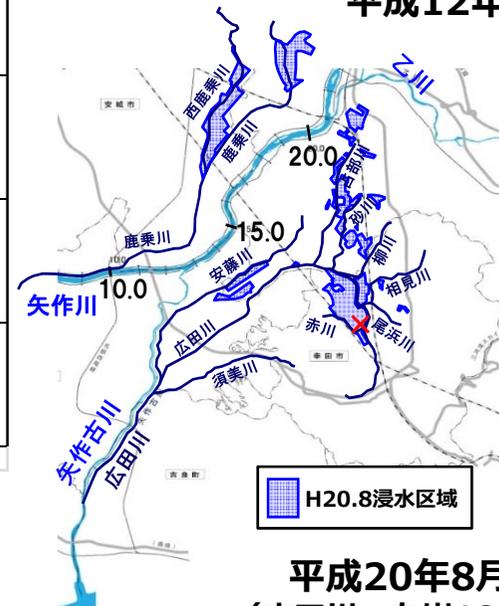
発生年月	要因	被害の内容	岩津地点実績流量
昭和34年9月	伊勢湾台風	全壊及び流失4,235棟、半壊14,188棟、 床上浸水1,990棟、床下浸水3,031棟、 水害区域面積 994ha	約3,600m <sup>3</sup> /s
昭和36年6月	台風と前線	全壊及び流失6棟、半壊53棟、 床上浸水371棟、床下浸水1,090棟、 水害区域面積 5,709ha	約3,300m <sup>3</sup> /s
昭和44年8月	台風7号	全壊及び流失3棟、 半壊床上浸水147棟、床下浸水478棟、 水害区域面積 2,738ha	約3,100m <sup>3</sup> /s
昭和47年7月	梅雨前線及び 台風6, 7, 9号	全壊及び流出452棟、 床上浸水3,877棟、床下浸水16,399棟、 水害区域面積 3,004ha	約2,600m <sup>3</sup> /s
平成12年9月	東海（恵南）豪雨 （秋雨前線及び 台風14号）	全壊及び流失26棟、半壊23棟、 床上浸水790棟、床下浸水1,962棟、 水害区域面積 1,798ha	約4,300m <sup>3</sup> /s [6,200m <sup>3</sup> /s]
平成20年8月	平成20年8月末豪雨	全壊及び流失5棟、半壊0棟、 床上浸水951棟、床下浸水1,927棟、 水害区域面積 547ha	約740m <sup>3</sup> /s

出典：S34「愛知県災害誌」、S36年以降「水害統計」

[ ] 書き：ダム戻し流量



平成12年9月洪水



平成20年8月洪水  
 （広田川：左岸10km付近）

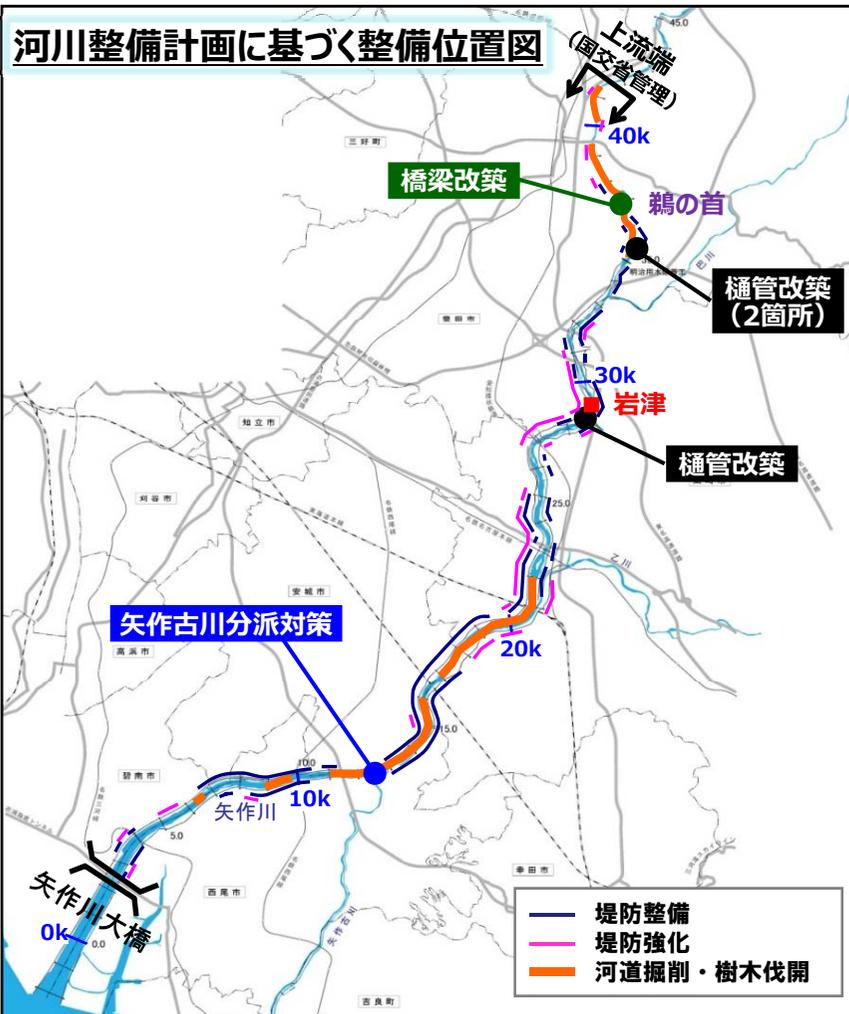


# ③ 治水

## 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

### ■ 目的及び計画内容

基準地点岩津において、矢作川の戦後最大洪水（平成12年9月洪水）と同程度の規模の洪水が発生しても、安全に流下させることを目的としています。  
 矢作川は、豊田市内の鵜の首狭窄部をはじめ、各所で東海（恵南）豪雨に対する河道の流下能力が不足しており、堤防整備や河道掘削等が必要です。



### ◆ 河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	基準地点名	河川整備計画 目標流量	洪水調節施設 による 洪水調節量 (矢作ダム)	河道整備流量	備考
矢作川	岩津	6,200m <sup>3</sup> /s	600m <sup>3</sup> /s	5,600m <sup>3</sup> /s	平成12年9月洪水対応

### ◆ 河川整備計画（概ね30年間）での主な整備内容

整備項目	全体
堤防整備・堤防強化	46 km
河道掘削	270 万m <sup>3</sup>
樹木伐開	27 万m <sup>2</sup>
矢作古川分派対策	1 箇所
橋梁改築	1 箇所
樋管改築	3 箇所

※堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

### ◆ 費用対効果 B/C=35.7 (H24再評価時)

# ③ 治水

## 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

### 事業の進捗状況（河川工事）

#### 河川整備計画策定以降の主な河川改修箇所



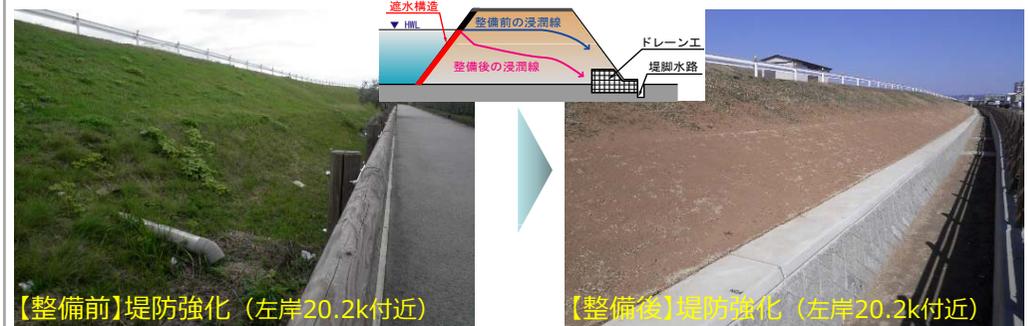
#### 河川整備計画にて計上された主な事業の実施状況

整備項目	事業全体	H24年度末完成	H27年度末完成(予定)
堤防整備・堤防強化	46 km	9 km	16 km
河道掘削	270 万m <sup>3</sup>	30 万m <sup>3</sup>	36 万m <sup>3</sup>
樹木伐開	27 万m <sup>2</sup>	4 万m <sup>2</sup>	16 万m <sup>2</sup>
矢作古川分派対策	1 箇所	—	1 箇所
橋梁改築	1 箇所	流域圏懇談会との関わり； 現地での意見交換や見学	
樋管改築	3 箇所		

※堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

平成28年3月末時点

#### 堤防強化の整備イメージ



### ③ 治水

## | 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

### ■ 事業の進捗状況（維持管理）



護岸の点検



異常を早期発見するための堤防除草



不法投棄の監視



出水時の巡視

#### ◆ 堤防の健全性を点検

堤防の亀裂、法崩れ、漏水などの異常箇所を早期に発見するため、堤防除草や、出水期前の堤防点検を実施します。

#### ◆ 災害の未然防止

洪水時においても堤防や護岸の状況を監視し、以上が発見された場合は速やかに水防工法等による緊急措置を実施できるように巡視を行い、破堤等による深刻な被害の発生を未然に防ぎます。

## ④ 利水 | 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

### ■ 進捗状況

- 日常的な水量の監視を行うとともに、取水実態の把握を行っています。
- 許可水利権について、水利権更新時に使用水量の実態や給水人口の動向などをふまえた適正な水利権の許認可を実施しています。
- 矢作川水利調整協議会を開催し、水利調整を実施しています。
- 矢作川における河川の適正な流水管理や水利用の現状と課題をふまえ、河川環境の保全や適切で効率的な取水が行われるように、日頃から関係機関及び水利使用者と情報交換を実施しています。

# ⑤ 環境 | 河川環境の整備と保全に関する事項

## ■ 事業の目的

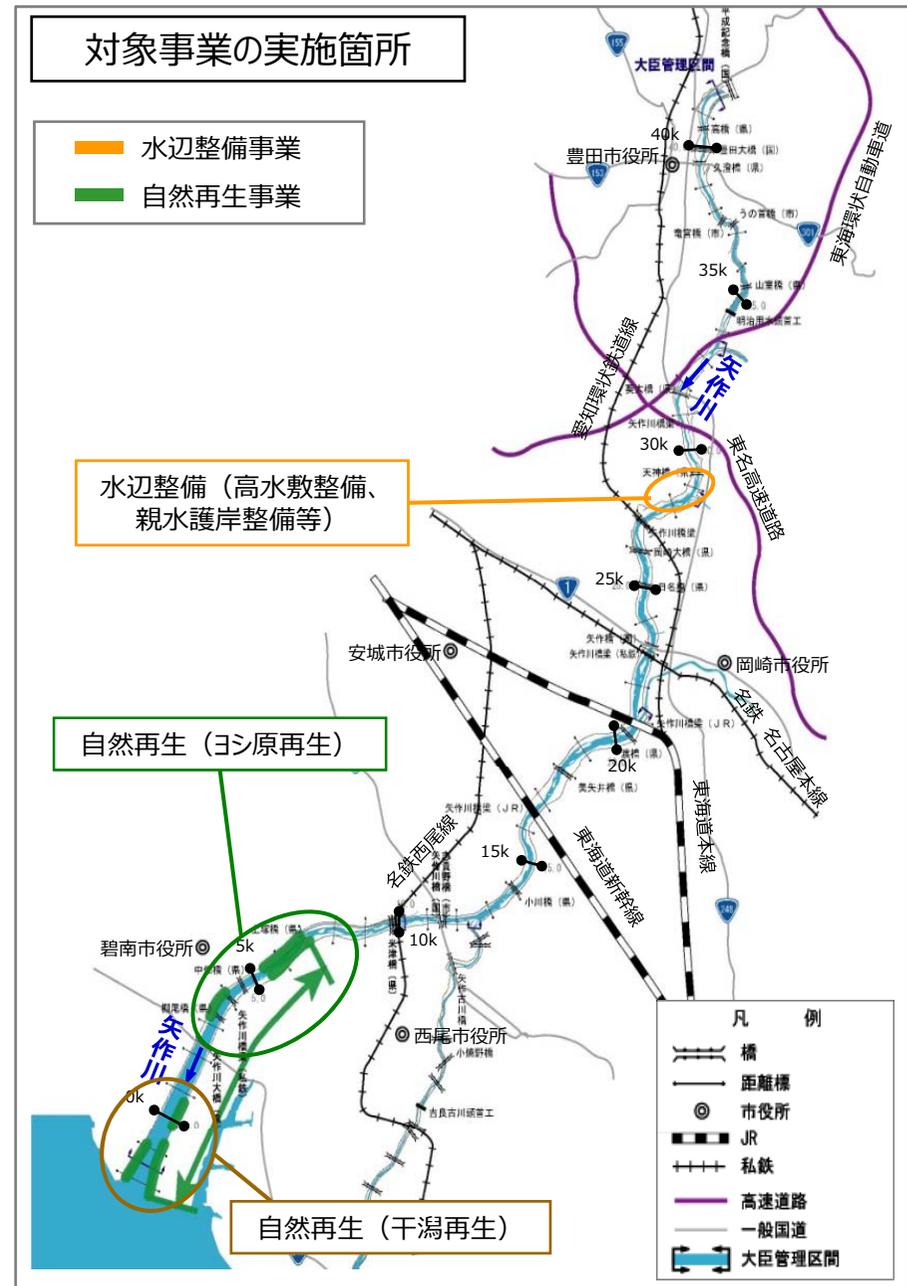
矢作川は、かつて砂州が卓越する河川であり、河口部には干潟、ヨシ原が広がり、良好な生物の生息生育場となっていました。砂利採取による河床低下や護岸整備などにより、このような環境が減少しました。

このため、河口部において干潟やヨシ原の再生を図り良好な河川環境を創出します。

また、中流部においては、親水護岸整備、高水敷整備などを実施することにより、親水やレクリエーションの場などとして安全に活用できる水辺空間を形成します。

## ■ 事業の概要

- ・事業区間：矢作川(愛知県)
- ・建設工期:平成15年度～平成32年度
- ・全体事業費：約26.5億円
- ・整備内容：
  - 水辺整備（高水敷整備、親水護岸整備等）
  - 自然再生（干潟再生、ヨシ原再生）
- ・費用対効果：
  - B/C=3.3（H24再評価時）



# ⑤ 環境 | 河川環境の整備と保全に関する事項

## ◆水辺整備、自然再生合計

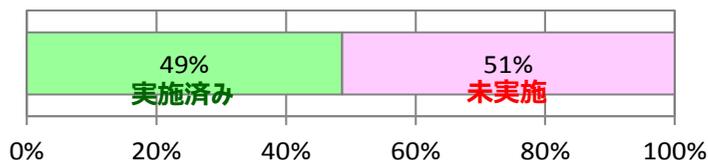
- 全体の進捗率は平成27年度末事業費ベースで約49%となっています。  
(参考：前回評価時の事業進捗率は約41%)
- 地域と連携した取り組みと一体となり事業の進捗が図られています。



H26. 10. 26撮影  
川と海のクリーン大作戦  
(西尾市)



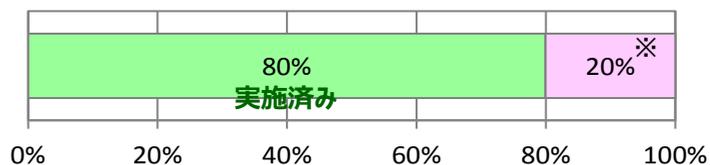
H26. 4. 26撮影  
地域住民と連携した  
ヨシ植え



全体事業費：2,645 百万円  
実施済み：1,287 百万円  
残事業費：1,358 百万円

## ◆大門水辺整備

進捗率は平成27年度末事業費ベースで約80%となっています。  
(参考：前回評価時の事業進捗率は約74%)

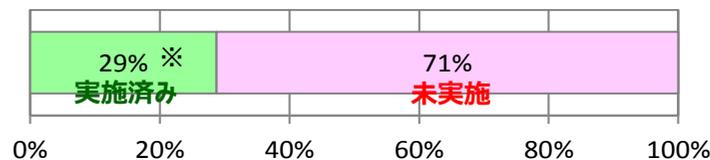


※残事業はすべて岡崎市の施工分



## ◆河口部自然再生 流域圏懇談会との関わり；勉強会、現地でのヨシ植え等

進捗率は平成27年度末事業費ベースで約29%となっています。  
(参考：前回評価時の事業進捗率は約21%)



※整備内容ごとの進捗率は、干潟：約26% ヨシ原：約37%



# ⑥

# 土砂管理

## 総合的な土砂管理に関する事項

流域圏懇談会との関わり；勉強会等

矢作川水系総合土砂管理計画策定に向けて（技術的な課題と検討の進め方）【平成27年5月 矢作川水系総合土砂管理検討委員会】より

### ◆目的

矢作ダム領域、発電ダム領域、河川領域など、各領域での対策をうまく連携させることによって、上流山地領域から河口・海岸領域までを含めた流砂系全体の土砂に関わる課題を解決していくことを目的としています。

### ◆基本方針

- ①流砂系一貫した土砂の連続性を可能な限り確保する。
- ②洪水等から流域を守る治水機能を維持・確保する。
- ③利水機能を維持・確保する。
- ④良好な河川環境を目指す。
- ⑤長い歴史の中で成立してきた矢作川の人々の営みとの関わりあいに配慮する。
- ⑥総合土砂管理に係る全体コストの最小化を図るとともに、流砂系全体の便益の最大化を目指す。

### 領域全体

山から海までの土砂流下のつながりを保つ

- ・流砂系一貫した土砂の連続性を可能な限り確保しつつ、全体コストの最小化、流砂系全体の便益の最大化

### 河川領域

災害の防止と環境保全

- ・現状の治水安全度を維持し、さらなる治水安全度を確保
- ・かつての河川環境や現在の河川環境を参考にした今後の矢作川にと良好な河川環境

### 河口・海岸領域

干潟の保全と再生

- ・多様な生態系を有する干潟
- ・干潟・浅場の保全や回復

### 山地領域

めつつ適度な土砂流下を促す

- ・災害の防止、大規模出水による発達の抑制
- ・連続性の観点から、土砂災害をない程度の土砂の流下

### ダム領域

機能をまもる

- ・治水機能の維持・確保

### ダム領域

防止と環境保全、利水機能の保全

- ・治水安全度の維持・確保
- ・環境変化への許容しながら、アユの生育に適した礫床環境や瀬淵の創出
- ・利水機能が持続する環境
- ・発電ダムの取水・放水口の閉塞等による利水機能障害の防止



# 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて

矢作川流域圏懇談会では、設立から6年が経過し、関係者のたゆみない努力によって、環境の改善や人々の繋がりが芽生えてまいりました。

ひきつづき流域圏懇談会へのご参加・ご支援をよろしくお願いいたします。



国土交通省 豊橋河川事務所  
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism